

履修方法

- ① 令和4年度開講科目
- ② 時間割
- ③ 履修登録
- ④ キャップ制
- ⑤ 学務情報システム
- ⑥ 履修制限について
- ⑦ 履修取消について
- ⑧ GPA制度

1

履修方法

○履修制限、履修取消、GPA制度について説明します。

令和4年度履修制限科目

○履修制限

授業科目には、大人数クラスとなり、教室の収容定員をオーバーする科目があります。これらの科目については、履修制限をかけることがあります。

2

授業科目によっては、履修制限をかけることがあります。

令和4年度履修制限科目 (昼間コース共通科目 基礎科目)

○履修制限予定科目

(前期科目→初回授業を受講)

- ・文化論
- ・宗教学
- ・社会科学
- ・政治学Ⅰ

(後期科目→別途掲示)

- ・文化人類学
- ・政治学Ⅱ

○履修希望方法はmanabaにてお知らせします。

3

○履修制限予定科目は次のとおりです。

当該科目の履修希望者は必ず

①初回授業に参加してください。

②履修制限方法はmanabaのコースニュースに掲載されますので、
その内容に従って履修希望登録を行ってください。

③履修希望者が定員を超えた場合、抽選により決定し、抽選結果は後日
manabaにて発表されます。

抽選で発表された学生は、自身で履修登録を行ってください。

上記のほかにも、履修制限をおこなう科目が追加されることがあります。

履修制限をおこなう場合は、manabaのコースニュースにて掲載されますので、気を付けてください。

履修取消制度(履修の手引き86頁)

- GPAが下がることを回避する特別な制度
- 取り消した単位分は追加登録できない！

- 履修取消期間

前期科目：6月13日(月)～17日(金)

通年・後期科目：11月21日(月)～28日(月)

集中講義：別途通知します。

4

○次に履修取消制度について説明します。

履修取消制度はGPAが下がることを回避するための特別な制度です。

・履修取消は、履修登録を削除するものではありません。申請された科目の成績に「W」が入力され、GPAの計算対象外となります。

・注意して欲しいのは、例えば、この履修取消制度を使って、前期で2単位分履修を取り消したとしても、その2単位分を後期の履修登録変更期間に他の科目で追加登録することはできないということです。

・繰り返しますが、取り消した単位分を追加登録できる制度ではありません。したがって、安易な履修登録は避ける必要があります。

※なお、後期開講科目を前期に履修登録できますが、後期の初回授業に出席し、登録した後期授業科目が実際のイメージと違う(受けた内容と違う)場合、

後期の履修登録変更期間に登録を変更(削除または別の科目に登録)することができます。

したがって、前期履修登録期間に後期科目も含めた履修計画を立てることを推奨します。

GPA制度 (Grade Point Average制度)

(履修の手引き86頁)

可否区分	評価	評点	グレードポイント
合 格	秀(A)	100点～90点	4
	優(B)	89点～80点	3
	良(C)	79点～70点	2
	可(D)	69点～60点	1
不合格	不可(F)	59点以下	0
履修取消	W (Withdrawal)	GPA計算対象外	

GPAの算出方法

$$\frac{4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総修得単位数(「不可」の単位数を含む。)}}$$

5

GPA制度

○次にGPA制度について説明します。

○本学では、学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく真剣な学習に役立つように、平成18年度入学生から、履修した全科目の成績の平均を数値で表したGPAを算出し、学業成績票に表記しています。

○このGPAは、学習の質を評価する成績評価の国際標準となっています。

○合格した科目だけではなく、不合格や受験不可の科目も成績算出対象となるのが大きな特徴のひとつです。したがって、学生には自分の履修に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

○表と算出方法をご覧ください。

○学生が履修した全科目の成績を、その得点に応じてグレード・ポイントを設定し、修得単位数を加味してグレード・ポイント1単位あたりの平均を数値で表したものです。

○GPAの目的ですが、5段階の成績評価をもとに、GPAを算出し、表示することで学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。

○具体的には、合格科目だけではなく不合格科目や受講を途中で止めた科目も成績評価の対象とするGPAを取り入れることにより、学生に対して今まで以上に真剣な履修登録、授業への取り組みを期待しています。

○また、GPAとして明確で客観的な総合的成績評価を学生に示すことにより、学生が自分自身の学習への努力の成果を把握しやすくすることも狙いとしています。

○皆さんがGPAを利用するにあたっては、高等学校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標として役立ちます。

○年度ごとに記載される自分のGPAを見ることで、成績の伸びなど、学習の状況を客観的に把握し、適切な履修計画とそれに基づく真剣な学習に役立てることができます。

○また、大学ではGPAを授業料免除や奨学金の学力基準に利用しています。